

## 1. 堤の会の紹介

広島市安佐南区伴東7丁目、松宗地区にある松宗堤（ため池）や火山（488.3m）登山道、そこを流れる松宗川などの整備をしているのが、「堤の会」です。この地域の自然環境を整備して、多くの生物が生息できるように、また、多くの人が憩える場にしようと活動しています。堤は、この地域では一番大きなため池で、1941年（昭和16）に完成し、以後、この地域の農業発展に寄与して来ました。土手に大きな石碑があるのが特徴です。面積は、約1700m<sup>2</sup>。深さは、約4m。標高136m。古い資料では、貯水時の水面の高さ：2.31m、貯水量：623m<sup>3</sup>とあります。1999年（平成11）6・29の豪雨災害時、近くの地域のため池で1人亡くなったこともあり、松宗堤の水を抜いた後、放置されて人が入れないジャングルの状態になっていました。



（堤の土手にある石碑の前で）

## 2. 今年度の主な活動状況

## 2021年

- ① 4月4日（日） 第3回花見会を実施する。（雨天、8人参加）
- ② 5月下旬～6月上旬：松宗川にホタルが飛ぶ。子ども会と協力して松宗川でホタルの観察をする。ホタルが見えたのは、1夜で2～5匹と今までとは激減した。
- ③ 6月20日（日） 第15回堤・火山登山道の整備を実施する。（13人参加）シュレーゲルアオガエルの泡状の卵塊と、マムシを発見する。
- ④ 6月29日（火）・7月6日（火）の2日間、山道の排水溝の架橋工事に取り組み完成する。（長さ：7.7m、幅：94cm）「まつむねつつみ橋」と命名する。
- ⑤ 7月28日（水） 子ども会と協力してホタルの餌となるカワニナを採取し、松宗川にまく。（14人参加：大人5人、子ども9人）
- ⑥ 11月20日（土） 第16回秋の堤・火山登山道の整備をする。（20人参加：沼田高校生物園芸部6人＋（先生1、子ども2）、安西高校生2人）沼田高校生物園芸部は、この時期に池に生息する水生生物を採集して個体を同定する。
- ⑦ 12月14日（火） シダレサクラを1本 堤の土手に植える。
- ⑧ 12月21日（火） 堤の整備で、排水溝が完成する。

## 2022年

- ⑨ 1月1日（土） 火山登山初日の出を見る会を実施する。（13人参加）
- ⑩ 1月25日（火） 堤の整備で、2つ目の池が完成する。（3m×6m、深さ50cm）
- ⑪ 2月14日（月） 2つ目の池にカエルが卵塊3個産卵している。
- ⑫ 3月5日（土） カエルが卵塊8個産卵している。（池1に3個、池2に5個）
- ⑬ 3月10日（木） 総会で、今年度の活動状況・会計・来年度について議論をする。

## 3. 成果

- ①今年度は、例年実施している春・秋の整備とともに、次の3点の重点整備ができた。
  - A：山道の溝の架橋整備では、長さ：7.7m、幅：94cm、溝底から橋までの最大の高さが70cmという予定より大きな橋が完成し、「まつむねつつみ橋」と命名した。
  - B：堤の底の排水溝整備では、夏の大雨洪水で土砂がたまり排水溝がふさがったため、計画を変更して土砂がたまって水が流れる方法を取った。
  - C：ピオトープづくりの2つ目の池づくりでは、掘っているところに水がたまり苦労したが、冬の寒い中で何とか完成した。

以上地域の方々の協力を得て、それぞれの項目の整備をやり切れたことが大きな成果となった。

- ②秋の整備では、沼田高校の生物園芸部の先生・部員の生徒と協力ができ、この時期の水生生物の特定ができた。特にコオイムシという、絶滅危惧種で、貴重な生物が生息していることを確認できた。

今年度確認できた生物：カエル（少なくとも3種類、1種類はシュレーゲルアオガエル）、マムシ、アカハライモリ、オニヤンマ、ギンヤンマ等。



- ③コロナ禍の中で、火山（ひやま）登山をする人が多くなり、堤に来る人が多くなった。「ここに来ると気持ちが和らぐ」とか、「家族の散歩で堤へ行く」という人も現れた。
- ④2つ目の池が完成してすぐ、カエルが多く卵塊を産み、昨年度よりも多くの多様な生物が繁殖することが期待される。

(写真1) 完成した橋「まつむねつつみ橋」(長さ: 7.7m、幅: 94cm)  
 渡り初めは、火山登山から下山された1人の若い女性でした。



(写真3) 2つ目の池

(写真2) 完成した排水溝



→  
川筋と排水溝



←  
奥が1つ目の池  
(池1)  
手前が2つ目の池  
(池2)



(写真4) 2021年11月20日に確認できた水生生物(沼田高校生物園芸部提供)



(ガムシ)



(コオイムシ)



(マツモムシ)



(ギンヤンマ)



(オニヤンマ)

#### 4. 課題

- ①堤の底の排水溝を新たに整備したが、今年の夏の洪水でどうなるか見守る必要がある。
- ②この地域では、モリアオガエルが生息する可能性があるなので、池の上に枝を伸ばす樹木を植樹した。モリアオガエルを含めて、堤がさらに多様な生物が生息する拠点づくりを目指したい。
- ③土手から池までの観察路を含めた整備を考えたい。
- ④多様な生物がいる自然の中で、子どもたちが自由に遊べる場(大きな砂場、斜面を滑り降りる区画など)を整備したい。